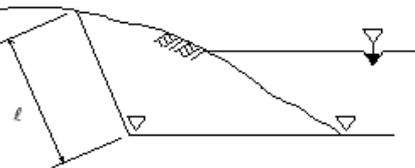
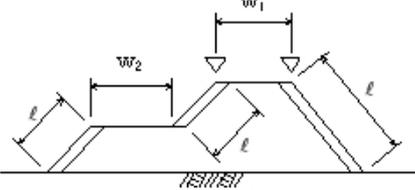
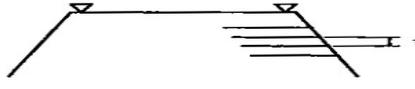
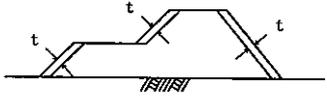
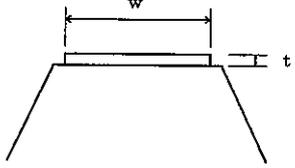
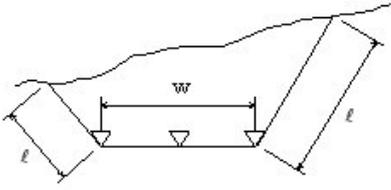
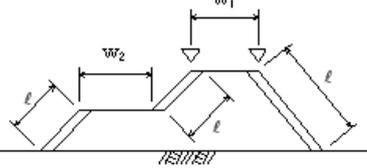
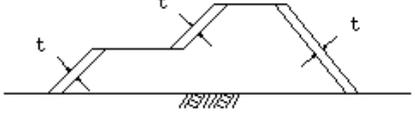


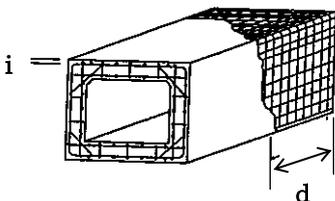
工 種	測定項目		規格値
掘削工	基準高 ∇		± 50
	法長 ℓ	$\ell < 5\text{m}$	-200
		$\ell \geq 5\text{m}$	法長-4%
盛土工	基準高 ∇		-50
	法長 ℓ	$\ell < 5\text{m}$	-100
		$\ell \geq 5\text{m}$	法長-2%
	幅 w_1, w_2		-100
盛土補強工	基準高 ∇		-50
	厚 さ t		-50
	控 え 長 さ		設計値以上
法面整形工 (盛土部)	厚 さ t		※-30
堤防天端工	厚さ t	$t < 15\text{cm}$	-25
		$t \geq 15\text{cm}$	-50
	幅 w		-100
掘削工	基準高 ∇		± 50
	法長 ℓ	$\ell < 5\text{m}$	-200
		$\ell \geq 5\text{m}$	法長-4%
	幅 w		-100
路体盛土工 路床盛土工	基準高 ∇		± 50
	法長 ℓ	$\ell < 5\text{m}$	-100
		$\ell \geq 5\text{m}$	法長-2%
	幅 w_1, w_2		-100
法面整形工 (盛土部)	厚 さ t		※ -30

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長40m(測点間隔50mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。基準高は掘削部の両端で測定。</p>		
<p>施工延長40m(測点間隔50mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。基準高は各法肩で測定。</p>		
<p>施工延長40m(測点間隔50mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>施工延長40m(測点間隔50mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所、法の中央で測定 ※土羽打ちのある場合に適用</p>		
<p>幅は、施工延長40m(測点間隔50mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。厚さは、施工延長200mにつき1箇所、200m以下は2箇所、中央で測定。</p>		
<p>幅は、施工延長40mにつき1箇所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。基準高は、道路中心線及び端部で測定。</p>	<p>▽：測定位置</p> 	
<p>施工延長40mにつき1箇所。延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。基準高は道路中心線及び端部で測定。</p>		
<p>施工延長40mにつき1箇所。延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用</p>		

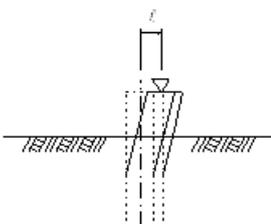
出来形管理基準及び規格値

単位mm

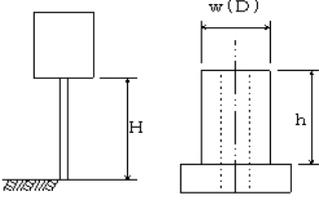
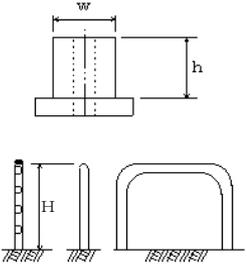
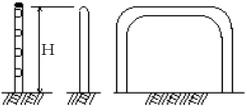
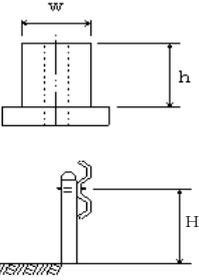
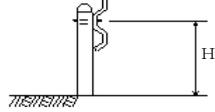
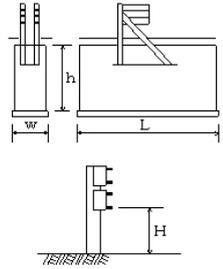
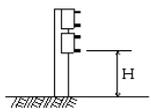
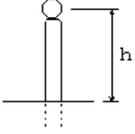
工 種	測定項目	規格値
組立て	間 隔 d	± φ
	か ぶ り i	平均間隔 d
	継手長	設定値以上

測定基準	測定箇所	摘 要
$d = \frac{D}{n - 1}$ <p>D : 本間の長さ n : 10本程度とする φ : 鉄筋径</p> <p>工事の規模に応じて、1リフト、1ロット当たりに対して各面で一箇所以上測定する。</p>		

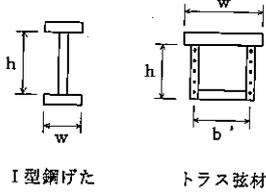
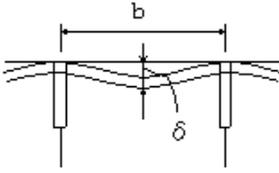
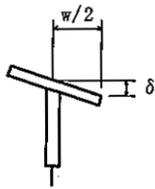
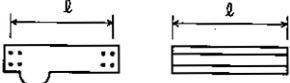
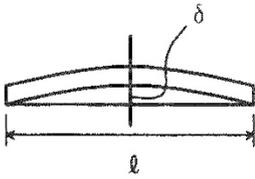
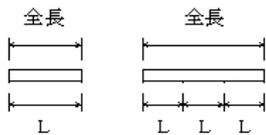
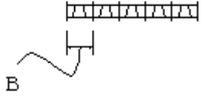
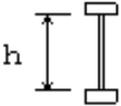
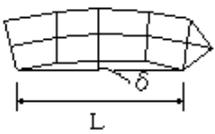
工 種	測定項目		規格値
矢板工 [任意仮設は除く] (鋼矢板) (鋼管矢板) (軽量鋼矢板) (広幅鋼矢板) (可とう鋼矢板)	基準高 ∇		±50
	根入長		設計値以上
	変位 ℓ		100
植生工 (張芝工) (筋芝工) (人工張芝工) (植生穴工) (種子散布工) (市松芝工) (植生シート工・植生マット工) (植生筋工)	切土法長 ℓ	$\ell < 5m$	-200
		$\ell \geq 5m$	法長の-4%
植生工 (植生基材吹付工) (客土吹付工)	法長 ℓ	$\ell < 5m$	-200
		$\ell \geq 5m$	法長の-4%
	厚さ t	$t < 5cm$	-10
		$t \geq 5cm$	-20
		但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上とし、平均厚は設計値以上。	
延長 L		-200	
縁石工 (縁石ブロック等の基礎) (現場打ち境界コンクリート)	幅 W		-10
	厚さ h		-10

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は施工延長40m(測点間隔50mの場合は50m)につき1箇所。延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p> <p>変位は、施工延長20m(測点間隔50mの場合は25m)につき1箇所。延長20m(又は25m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>施工延長40mにつき1箇所。延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>施工延長40mにつき1箇所、40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>施工延長40mにつき1箇所、施工延長40m以下のものは、1箇所につき2箇所。 検査孔により測定。</p>		
<p>200m毎又は1施工箇所毎</p>		
<p>施工延長40mにつき1箇所。延長40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		

工 種	測定項目		規格値
小型標識工	設置高さ H		設計値以上
	基礎	幅 W (D)	-30
		高さ h	-30
		根入長	設計値以上
防止柵工 (立入防止柵) (転落(横断)防止柵) (車止めポスト)	基礎	幅 W	-30
		高さ h	-30
	パイプ取付高 H		+30 -20
	路側防護柵工 (ガードレール)	基礎	幅 W
高さ h			-30
ビーム取付高 H		+30 -20	
路側防護柵工 (ガードケーブル)		基礎	幅 W
	高さ h		-30
	延長 L		-100
	ケーブル取付高 H		+30 -20
区画線工 仮区画線工	厚 さ t (溶融式の み)		設計値以上
	幅 W		設計値以上
道路付属物工 (視線誘導標) (距離標)	高 さ h		±30

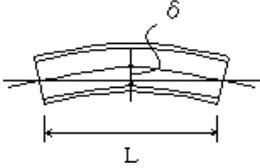
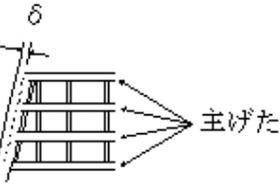
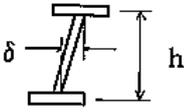
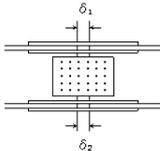
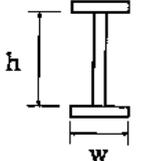
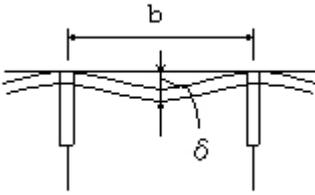
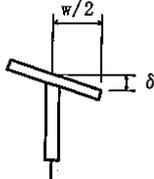
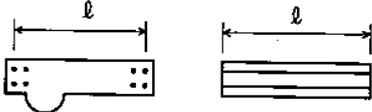
測定基準	測定箇所	摘要
1箇所/1基 基礎1基毎		
単独基礎10基につき1基、10基以下のものは2基測定。測定箇所は1基につき1箇所測定。		
1箇所/1施工箇所		
1箇所/施工延長40m 40m以下のものは、2箇所/1施工箇所		
1箇所/1施工箇所		
1箇所/1基礎毎		
1箇所/1施工箇所		
各線種毎に、1箇所テストピースにより測定。 各線種毎に幅測定		
1箇所/10本 10本以下の場合、2箇所測定。		

工 種	測定項目		規格値	
<p style="text-align: center;">桁製作工 (仮組立による検査を実施する場合)</p>	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b, b' (m)		$\pm 2 \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3+w/2) \cdots 2.0 < w$	
	部 材	鋼げた及びトラス等の部材の腹板	$h / 250$	
		箱桁及びトラス等のフランジ鋼床版のデッキプレート	$b / 150$	
	精 度	フランジの直角度 δ (mm)	$W / 200$	
		部 材 長 ℓ (m)	鋼げた	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$
	トラス、アーチなど		$\pm 2 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 3 \cdots \ell > 10$	
		圧縮材の曲がり	δ (mm)	$\ell / 1000$
		仮 組 立 精 度	全長、支間長 L (m)	$\pm (10+L/10)$
	主桁、主構の中心間距離 B (m)		$\pm 4 \cdots B \leq 2$ $\pm (3+B/2) \cdots B > 2$	
	主構の組立高さ h (m)		$\pm 5 \cdots h \leq 5$ $\pm (2.5+h/2) \cdots h > 5$	
	主桁、主構の通り δ (mm)		$5+L/5 \cdots L \leq 100$ $25 \cdots L > 100$	

測定基準		測定箇所	摘 要
鋼けた等	トラス、アーチ等		
主桁・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。		 <p>I型鋼けた トラス弦材</p>	
床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。			
主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。 h : 腹板高(mm) b : 腹板又はリブの間隔(mm) w : フランジ幅(mm)			
			
原則として仮組立をしない状態の部材について、主要部材全数を測定。			
主要部材全数を測定。 ℓ : 部材長(mm)			
主桁、主構全数を測定。			
各支点及び各支間中央付近を測定。			
—	両端部及び中心部を測定。		
最も外側の主桁又は主構について支点及び支間中央の1点を測定。 L : 測線上(m)		 <p>主げた</p>	

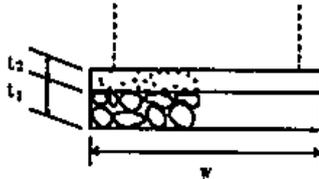
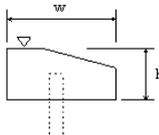
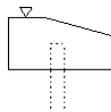
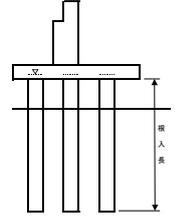
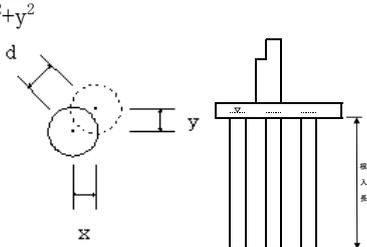
※規格値のw、・に代入する数値はm単位の数値である。ただし、「板の平面度δ、フランジの直角度δ、圧縮材の曲りδ」の規格値のh、b、w、cに代入する数値はmm単位の数値とする。

工 種	測定項目		規格値	
<p style="text-align: center;">桁製作工 (仮組立による検査を実施する場合)</p>	仮組立精度	主桁、主構のそり δ (mm)	$-5 \sim +5 \cdots L \leq 20$ $-5 \sim +10 \cdots 20 < L \leq 40$ $-5 \sim +15 \cdots 40 < L \leq 80$ $-5 \sim +25 \cdots 80 < L \leq 200$	
		主桁、主構の橋端における出入差 δ (mm)	設計値 ± 10	
		主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	$3 + h/1000$	
		現場継手部のすき間 δ_1, δ_2 (mm)	設計値 ± 5	
<p style="text-align: center;">桁製作工 (仮組立による検査を実施しない場合)</p>	部材精度	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b' (m)	$\pm 2 \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3+w/2) \cdots 2.0 < w$	
		板の平面度 δ (mm)	鋼げた等の部材の腹板	$h/250$
		箱桁等のフランジ鋼床版のデッキプレート		$b/150$
		フランジの直角度 δ (mm)	$w/200$	
		部材長 ℓ (m)	鋼げた	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$

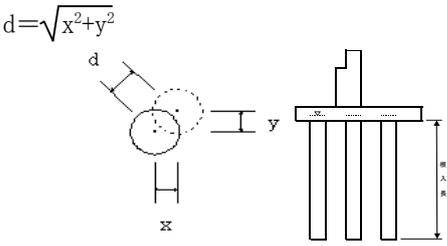
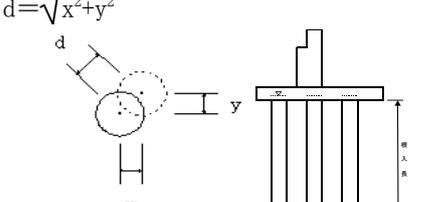
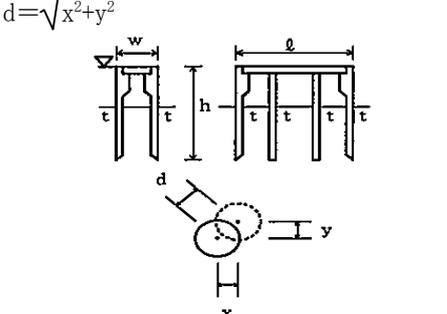
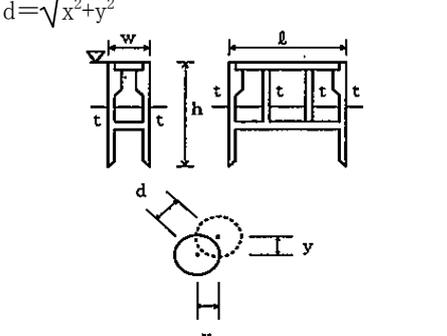
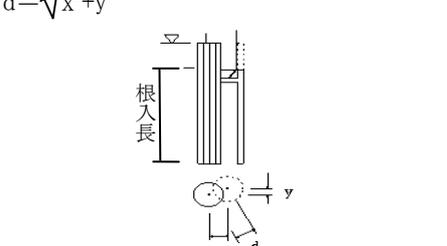
測定基準		測定箇所	摘 要
鋼けた等	トラス、アーチ等		
各主桁について10～12m間隔を測定。 L：主げたの支間長(m)	各主構の各格点を測定。 L：主構の支管長(m)		
どちらか一方の主桁(主構)端を測定。			
各主桁の両端部を測定。 h：主げたの高さ(mm)	支点及び支間中央付近を測定。 h：主構の高さ(mm)		
主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 δ_1 、 δ_2 のうち大きいもの 設計値が5mm以下の場合にはマイナスを認めない。			
主桁、主構 各支点及び各支間中央付近を測定。	床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。	 I型鋼けた	
主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。 h：腹板高 (mm) b：腹板又はリブの間隔 (mm) w：フランジ幅 (mm)		 	
主要部材全数を測定。			

※規格値のL, B, h に代入する数値はm単位の数値である。ただし、「主げた、主構の鉛直度 δ 」の規格値のhに代入する数値はmm単位の値とする。

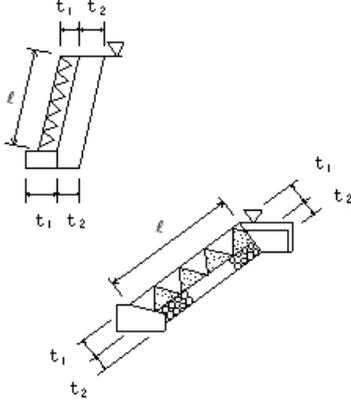
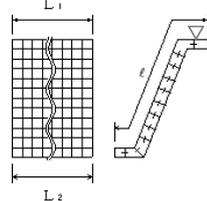
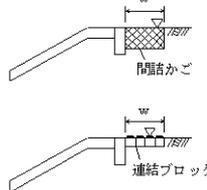
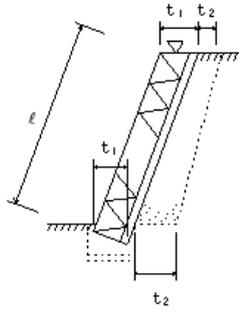
工 種	測定項目	規格値
工場塗装工	塗 膜 厚	a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を越えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。
コンクリート面塗装工	塗料使用量	鋼道路橋塗装・防食便覧 Ⅱ—74 「表-Ⅱ.5.5各塗料の標準使用量と標準膜厚」の標準使用量以上
一般事項 (切込砂利) (砕石基礎工) (割ぐり基礎工) (均しコンクリート)	幅 W	設計値以上
	厚 さ t_1, t_2	設計値以上
	延 長 L	各構造物の規格値による
基礎工 (護岸) (現場打)	基 準 高 ∇	±30
	幅 W	-30
	高 さ h	-30
	延 長 L	-200
基礎工 (護岸) (プレキャスト)	基 準 高 ∇	±30
	延 長 L	-200
既製杭工 (既製コンクリート杭) (鋼管杭) (H鋼杭)	基 準 高 ∇	±50
	根 入 長	設計値以上
	偏 心 量 d	D/4以内かつ100以内
	傾 斜	1/100以内

測定基準	測定箇所	摘 要
<p>工場塗装終了時に測定。ただし、工場 で上塗りまで塗装する場合は、上塗り終 了時にも測定。なお、鋼道路橋塗装・防 食便覧にいうC塗装系の場合は、無機ジ ンクリッチペイントの塗装後にも測定。 1ロットの大きさは、500㎡とする。 1ロット当たりの測定数は25点とし、各 点の測定は5回行い、その平均値をその 点の測定値とする。</p>		
<p>塗装系ごとの塗装面積を算出・照査し て各塗料の必要量を求め塗付作業の開 始前に搬入量（缶缶数）、塗布作業終 了時に使用量（空缶数）を確認し、各々必 要量以上であることを確認する。1ロッ トの大きさは500㎡とする。</p>		
<p>施工延長40m（測点間隔50mの場合は50 m）につき1箇所、延長40m（又は50m） 以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>施工延長40m（測点間隔50mの場合は50 m）につき1箇所、延長40m（又は50m） 以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>施工延長40m（測点間隔50mの場合は50 m）につき1箇所、延長40m（又は50m） 以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>全数について杭中心で測定。</p>	<p>$d = \sqrt{x^2 + y^2}$</p> 	

工 種	測定項目	規格値
場所打杭工	基準高 ∇	±50
	根入長	設計値以上
	偏心量 d	D/4以内かつ100以内
	傾斜	1/100以内
	杭径	設計径（公称径） -30以上
深礎工	基準高 ∇	±50
	根入長	設計値以上
	偏心量 d	150以内
	傾斜	1/50以内
オープンケーソン 基礎工	基準高 ∇	±100
	ケーソンの長さ l	-50
	ケーソンの幅 w	-50
	ケーソンの高さ h	-100
	ケーソンの壁厚 t	-20
	偏心量 d	300以内
ニューマチック ケーソン基礎工	基準高 ∇	±100
	ケーソンの長さ l	-50
	ケーソンの幅 w	-50
	ケーソンの高さ h	-100
	ケーソンの壁厚 t	-20
	偏心量 d	300以内
鋼管矢板基礎工	基準高 ∇	±100
	根入長	設計値以上
	偏心量 d	300以内

測定基準	測定箇所	摘要
全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロット毎に測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロット毎に測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
基準高は、全数を測定。 偏心量は、1基毎に測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	

工 種	測定項目		規格値
コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積) (コンクリートブロック張り)	基準高 ∇		±50
	法 長 ℓ	$\ell < 3\text{ m}$	-50
		$\ell \geq 3\text{ m}$	-100
	厚さ(ブロック積張) t_1		-50
	厚さ(裏込) t_2		-50
	延 長 L		-200
コンクリートブロック工 (連節ブロック張り)	基準高 ∇		±50
	法 長 ℓ		-100
	延 長 $L_1、L_2$		-200
コンクリートブロック工 (天端保護ブロック)	基準高 ∇		±50
	幅 W		-100
	延 長 L		-200
石積(張)工	基準高 ∇		±50
	法 長 ℓ	$\ell < 3\text{ m}$	-50
		$\ell \geq 3\text{ m}$	-100
	厚さ(石積・張) t_1		-50
	厚さ(裏込) t_2		-50
	延 長 L		-200

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長40m(測点間隔50mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。厚さは上端部及び下端部の2箇所を測定。</p>		
<p>施工延長40m(測点間隔50mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>施工延長40m(測点間隔50mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>施工延長 40 m(測点間隔 50m の場合は 50 m)につき 1 箇所、延長 40 m(又は 50 m)以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。厚さは、上端部及び下端部の 2 箇所を測定。</p>		

出来形管理基準及び規格値

単位mm

工 種	測定項目	規格値	
		個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X_{10})
アスファルト舗装工 (下層路盤工)	基 準 高 ▽	±40	—
	厚 さ	-45	-15
	幅	-50	—
アスファルト舗装工 (上層路盤工)	基 準 高 ▽	±40	—
	厚 さ	-25	-8
	幅	-50	—
アスファルト舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-3
	幅	-25	—
アスファルト舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-2
	幅	-25	—
	平 坦 性	—	3m ² プロファイル ター (σ)2.4mm以下 直読式 (足付き) (σ)1.75 mm 以下
アスファルト舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工	厚 さ	-25	-8
	幅	-50	—

測定基準	測定箇所	摘 要
<p>基準高は延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは、各車線20m毎に測定。幅は、延長40m毎に1箇所の割に測定。</p>	<p>基準高については、舗装版打換え時は補充材の施工完了面、全層打換え時の下層路盤が無い舗装構造の場合は路床面にて測定する。</p>	
<p>幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定。基準高は延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定（ただし、舗装版打換え時及び全層打換え時の下層路盤が無い舗装構造の場合に適用する）。</p>		
<p>幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。</p>	<p>コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	
<p>幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。 平坦性は、各車線毎に全延長を測定。</p>	<p>維持工事、及び施工延長 100m 未満又は人力敷均しにより舗設した箇所においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	
<p>幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1,000㎡毎に1個の割合でコアーを採取して測定。</p>	<p>コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	

出来形管理基準及び規格値

単位mm

工 種	測定項目	規格値	
		個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X ₁₀)
アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	-5
	幅	-50	-
コンクリート舗装工 (下層路盤工)	基 準 高 ▽	±40	-
	厚 さ	-45	-15
	幅	-50	-
コンクリート舗装工 (上層路盤工)	基 準 高 ▽	±40	-
	厚 さ	-25	-8
	幅	-50	-
コンクリート舗装工 (コンクリート舗装版工)	厚 さ	-10	-3.5
	幅	-25	-
	平 坦 性		コンクリートの硬化後、3mプロファイルターにより機械舗設の場合 (σ)2.4mm以下 人力舗設の場合 (σ)3mm以下
	目 地 段 差	±2	
コンクリート舗装工 (セメント (石灰・瀝青) 安定処理工)	厚 さ	-25	-8
	幅	-50	-
コンクリート舗装工 (アスファルト中間層)	厚 さ	-9	-3
	幅	-25	-

測定基準	測定箇所	摘 要
幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
基準高は延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線20m毎に測定。幅は、延長40m毎に1箇所の割に測定。	厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X_{10})について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定。基準高は延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定（ただし、舗装版打換え時及び全層打換え時の下層路盤が無い舗装構造の場合に適用する）。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 基準高については、舗装版打換え時は補充材の施工完了面、全層打換え時の下層路盤が無い舗装構造の場合は路床面に測定する。	
厚さは、各車線の中心付近で型枠据付後各車線20m毎に水準又はレベルにより1測線当り横断方向に3箇所以上測定し、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。幅は、延長40m毎に1箇所の割りで測定。平坦性は各車線毎に版縁から1mの線上、全延長とする。	厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X_{10})について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 維持工事、及び施工延長100m未満の場合においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。		
幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線毎に測定し、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X_{10})について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	

出来形管理基準及び規格値

単位mm

工 種	測定項目	規格値	
		個々の測定値(X)	個々の測定値(X)
コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 下層路盤工	基準高 ▽	±40	—
	厚 さ	-45	-15
	幅	-50	—
コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 上層路盤工	基準高 ▽	±40	—
	厚 さ	-25	-8
	幅	-50	—
コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) セメント(石灰・瀝青)安定処理工	厚 さ	-25	-8
	幅	-50	—
コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) アスファルト中間層	厚 さ	-9	-3
	幅	-25	—
コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工)	厚 さ	-15	-4.5
	幅	-35	—
	平坦性	—	転圧コンクリートの硬化後3mプロフィルメータにより(σ)2.4mm以下
	目地段差	±2	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は、延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは、各車線20m毎に測定。幅は、延長40m毎に1箇所の割に測定。</p>	<p>厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X_{10})について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	
<p>幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定。基準高は延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定(ただし、舗装版打換え時及び全層打換え時の下層路盤が無い舗装構造の場合に適用する)。</p>	<p>基準高については、舗装版打換え時は補充材の施工完了面、全層打換え時の下層路盤が無い舗装構造の場合は路床面にて測定する。</p>	
<p>幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1,000㎡に1個の割でコアを採取して測定。</p>	<p>厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X_{10})について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	
<p>幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し、1,000㎡に1個の割でコアを採取して測定。</p>	<p>コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	
<p>厚さは各車線の中心付近で型枠据付後各車線20m毎に水糸又はレベルにより1測線当り横断方向に3箇所以上測定、幅は、延長40m毎に1箇所の割りで測定。平坦性は各車線毎に版縁から1mの線上、全延長とする。</p>	<p>維持工事₂及び施工延長100m未満又は人力敷均しにより舗設した箇所においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	
<p>隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。</p>		

出来形管理基準及び規格値

単位mm

工 種	測定項目	規格値	
		個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X ₁₀)
薄層カラー舗装工 (下層路盤工) (粒度調整路盤工)	基準高 ▽	±40	—
	厚 さ	-45	-15
	幅	-50	—
薄層カラー舗装工 (上層路盤工)	基準高 ▽	±40	—
	厚 さ	-25	-8
	幅	-50	—
薄層カラー舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-3
	幅	-25	—
薄層カラー舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工	基準高 ▽	±40	—
	厚 さ	-25	-8
	幅	-50	—
薄層カラー舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	-5
	幅	-50	—

測定基準	測定箇所	摘 要
<p>基準高は、延長40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは、各車線20m毎に1箇所を測定。幅は、延長40m毎に1箇所の割に測定。</p>	<p>厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X_{10}) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p> <p>基準高については、舗装版打換え時は補充材の施工完了面、全層打換え時の下層路盤が無い舗装構造の場合は路床面にて測定する。</p>	
<p>幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線20m毎に測定し。(ただし、舗装版打換え時及び全層打換え時の下層路盤が無い舗装構造の場合に適用する)</p>		
<p>幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。</p>	<p>厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X_{10}) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	
<p>幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。(ただし、舗装版打換え時及び全層打換え時の下層路盤が無い舗装構造の場合に適用する)</p>	<p>コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p> <p>基準高については、舗装版打換え時は補充材の施工完了面、全層打換え時の下層路盤が無い舗装構造の場合は路床面にて測定する。</p>	
<p>幅は、延長40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。</p>		

工 種	測定項目	規格値	
		個々の測定値(X)	10個の測定値の平均(X ₁₀)
ブロック舗装工 (下層路盤工)	基 準 高 度 ▽	±40	—
	厚 さ	-45	-15
	幅	-50	—
ブロック舗装工 (上層路盤工)	基 準 高 度 ▽	±40	—
	厚 さ	-25	-8
	幅	-50	—
ブロック舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-3
	幅	-25	—
ブロック舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚 さ	-25	-8
	幅	-50	—
ブロック舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	-5
	幅	-50	—

測定基準	測定箇所	摘 要
<p>基準高は、延長 40 m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは、各車線 20 m毎に測定。 幅は、延長40m毎に1箇所の割に測定。</p>	<p>厚さは、個々の測定値が 10 個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X_{10}) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	
<p>幅は、延長 40 m毎に1箇所の割にとし、厚さは、各車線 20 m毎に測定。基準高は延長 40 m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定（ただし、舗装版打換え時及び全層打換え時の下層路盤が無い舗装構造の場合に適用する）。</p>	<p>基準高については、舗装版打換え時は補充材の施工完了面、全層打換え時の下層路盤が無い舗装構造の場合は路床面にて測定する。</p>	
<p>幅は、延長 40 m毎に1箇所の割にとし、厚さは、各車線 20 m毎に測定し、1,000 m²毎の割でコアーを採取して測定。</p>	<p>厚さは、個々の測定値が 10 個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X_{10}) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p> <p>コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	
<p>幅は、延長 40 m毎に1箇所の割にとし、厚さは、各車線 20 m毎に測定し、1,000 m²毎の割でコアーを採取して測定。</p>	<p>厚さは、個々の測定値が 10 個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X_{10}) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p> <p>コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	
<p>幅は、延長 40 m毎に1箇所の割にとし、厚さは、各車線 20 m毎に測定し、1,000 m²毎の割でコアーを採取して測定。</p>		

出来形管理基準及び規格値

単位mm

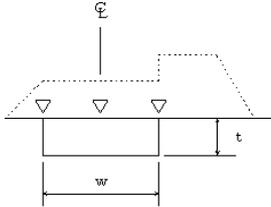
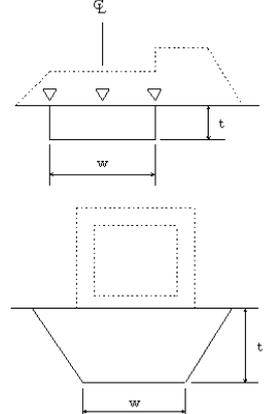
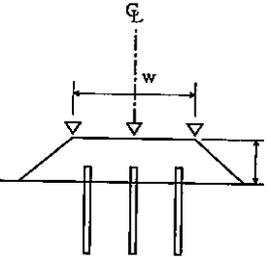
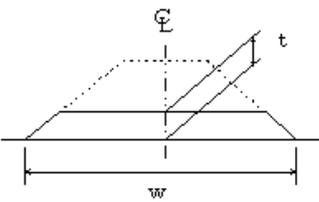
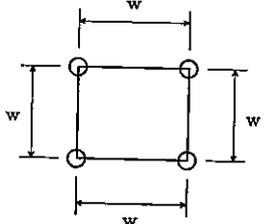
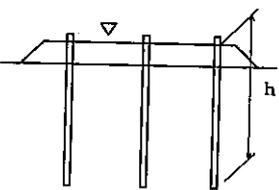
工 種	測定項目	規格値	
		個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X ₁₀)
歩道舗装工 (上層路盤工)	基準高▽	±50	
	厚 さ	t < 15 cm	-30
		t ≥ 15 cm	-45
	幅	-100	
歩道舗装工 (表層工)	厚 さ	-9	
	幅	-25	

出来形管理基準及び規格値

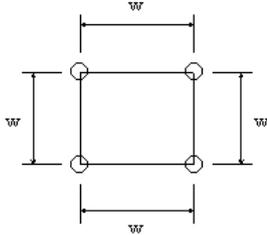
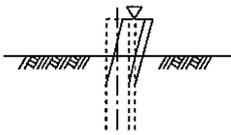
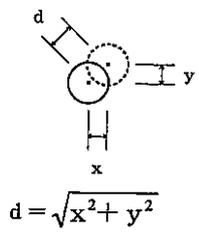
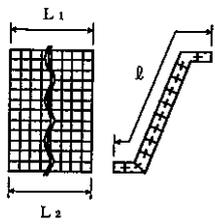
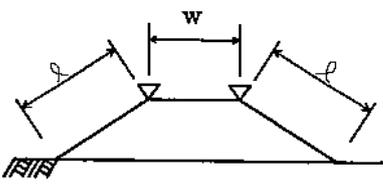
単位mm

測定基準	測定箇所	摘 要
<p>基準高は片側延長40m毎に1箇所の割で測定。 厚さは、片側延長20m毎に測定。 幅は、片側延長40m毎に1箇所測定。</p> <p>※両端部2点で測定する。</p>		
<p>幅は、片側延長40m毎に1箇所の割で測定。厚さは、片側延長20m毎に測定。</p>		

工 種	測定項目	規格値
路床安定処理工	基 準 高 ∇	±50
	施工厚さ t	-50
	幅 w	-100
	延 長 L	-200
置換工	基 準 高 ∇	±50
	置換厚さ t	-50
	幅 w	-100
	延 長 L	-200
パイルネット工	基 準 高 ∇	±50
	置換厚さ t	-50
	幅 w	-100
	延 長 L	-200
サンドマット工	施工厚さ t	-50
	幅 w	-100
	延 長 L	-200
バーチカルドレーン工 (サンドドレーン工) (ペーパードレーン工) (袋詰式サンドドレーン工) 締固め改良工 (サンドコンパクションパイル工)	位置・間隔 w	±100
	杭 径 D	設計値以上
	打込長さ h	設計値以上
	サンドドレーン、袋詰式サンドドレーン、サンドコンパクションパイルの砂投入量	-

測定基準	測定箇所	摘要
<p>延長40m毎に1箇所の割で測定。基準高は、道路中心線及び端部で測定。厚さは中心線及び端部で測定。</p>		
<p>施工延長40m (測点間隔50mの場合は50m)につき1箇所、延長40m (50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。厚さは中心線及び端部で測定。</p>		
<p>施工延長40m (測点間隔50mの場合は50m)につき1箇所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。 杭については、当該杭の項目に準ずる。</p>		
<p>施工延長40m (測点間隔50mの場合は50m)につき1箇所。厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。</p>		
<p>100本に1箇所。 100本以下は2箇所測定。1箇所に4本測定。 ただし、ペーパードレーンの杭径は対象外とする。</p>		
<p>全本数</p>		
<p>全本数 計器管理にかえることができる。</p>	<p>※余長は、適用除外</p>	

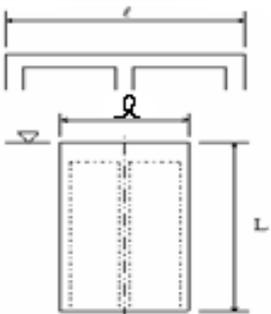
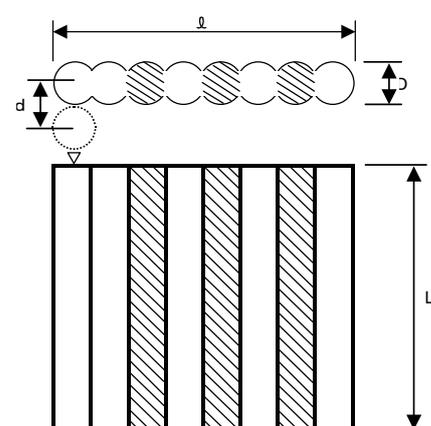
工 種	測定項目	規格値
固結工 (粉体噴射攪拌工) (高压噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)	基 準 高 ∇	-50
	位 置・間 隔 W	D/4以内
	杭 径 D	設計値以上
	深 度 ℓ	設計値以上
土留・仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板)	基 準 高 ∇	±100
	根 入 長	設計値以上
土留・仮締切工 (アンカー工)	削 孔 深 さ ℓ	設計深さ以上
	配 置 誤 差 d	100
土留・仮締切工 (連節ブロック張り工)	法 長 ℓ	-100
	延 長 L 1, L 2	-200
土留・仮締切工 (締切盛土)	基 準 高 ∇	-50
	天 端 幅 W	-100
	法 長 ℓ	-100
土留・仮締切工 (中詰盛土)	基 準 高 ∇	-50

測定基準	測定箇所	摘要
<p>100本に1箇所。 100本以下は2箇所測定。1箇所に4本測定。</p>		
<p>全本数。</p>		
<p>基準高は、施工延長40m(測点間隔50mの場合は50m)につき1箇所。延長40m(又は50m)以下のものは、1施工箇所につき2箇所。 (任意仮設は除く)</p>		
<p>全数 (任意仮設は除く)</p>	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
<p>施工延長40m(測点間隔50mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>1施工箇所毎。</p>		
<p>施工延長50mにつき1箇所。 延長50m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 (任意仮設は除く)</p>		
<p>施工延長50mにつき1箇所。 延長50m以下のものは、1施工箇所につき2箇所。 (任意・仮設は除く)</p>		

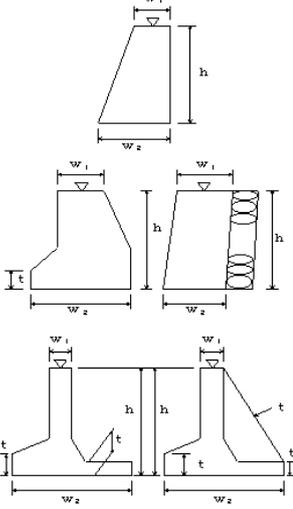
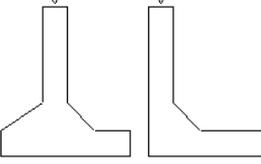
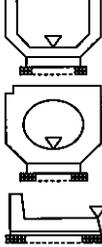
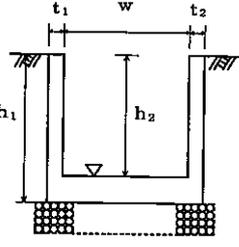
出来形管理基準及び規格値

単位mm

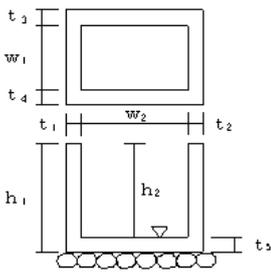
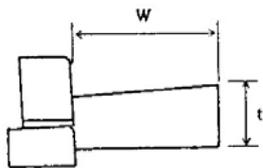
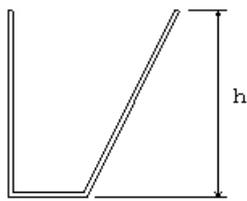
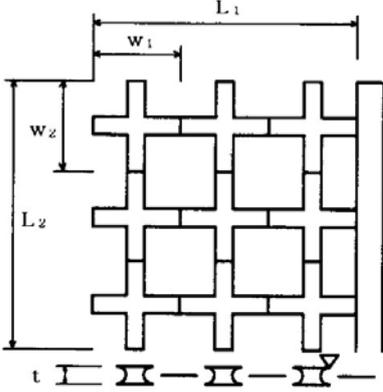
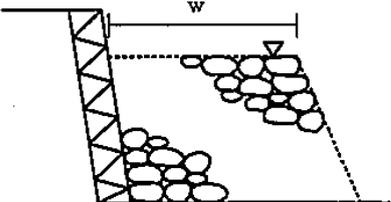
工 種	測定項目	規格値
地中連続壁工 (壁式)	基準高 ∇	± 50
	連壁の長さ l	-50
	変 位	300
	壁 体 長 L	-200
地中連続壁工 (柱列式)	基準高 ∇	± 50
	連壁の長さ l	-50
	変 位 d	$D/4$ 以内
	壁 体 長 L	-200

測定基準	測定箇所	摘 要
<p>基準高は施工延長40m(測点間隔50mの場合は50m)につき1箇所。延長40m(又は50m)以下のものについては1施工箇所につき2箇所。</p> <p>変位は施工延長20m(測点間隔50mの場合は25m)につき1箇所。延長20m(又は25m)以下のものは、1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>基準高は施工延長40m(測点間隔50mの場合は50m)につき1箇所。延長40m(又は50m)以下のものについては1施工箇所につき2箇所。</p> <p>変位は施工延長20m(測点間隔50mの場合は25m)につき1箇所、延長20m(又は25m)以下のものは、1施工箇所につき2箇所。</p>		<p>D : 杭径</p>

工 種	測定項目	規格値	
現場塗装工	塗膜厚	a. ロットの塗膜厚平均値は、目標膜厚合計値の100%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の80%以上。	
場所打擁壁工	基準高 ∇	± 50	
	厚 さ t	-20	
	裏込厚さ	-50	
	幅 w_1, w_2	-30	
	高さ h	$h < 3m$	-50
		$h \geq 3m$	-100
	延長 L	-200	
プレキャスト擁壁工	基準高 ∇	± 50	
	延長 L	-200	
側溝工 (プレキャストU型側溝) (L型側溝) (自由勾配側溝) (管渠)	基準高 ∇	± 30	
	延長 L	-200	
現場打水路工	基準高 ∇	± 30	
	厚 さ $t_1 t_2$	-20	
	幅 w	-30	
	高 さ $h_1 h_2$	-30	
	延長 L	-200	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>塗装終了時に測定。 1ロットの大きさは500㎡とする。 1ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。 ※本基準は塗替塗装に適用し、新たに塗装する場合はⅢ-1-3-13工場塗装工の基準を準拠するものとする。</p>		
<p>施工延長40m(測点間隔50mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは、1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>1 施工箇所毎</p>		
<p>施工延長40m(測点間隔50mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1 施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>1 施工 1 箇所毎。</p>		
<p>施工延長40m(測点間隔50mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは、1 施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>1 箇所 / 1 施工箇所</p>		
<p>施工延長40m(測点間隔50mの場合は50m)につき1箇所、施工延長40m(又は50m)以下のものは1 施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>1 施工箇所毎</p>		

工 種	測定項目	規格値	
街渠柵（集水柵）・マンホール工	基準高 ∇	±30	
	※厚 さ $t_1 \sim t_5$	-20	
	※幅 w_1, w_2	-30	
	※高 さ h_1, h_2	-30	
街渠工 (街渠コンクリート)	幅 w	-10	
	厚 さ t	-10	
刃口金物製作工	刃口高さ h (m)	$\pm 2 \cdots h \leq 0.5m$ $\pm 3 \cdots 0.5 < h \leq 1.0m$ $\pm 4 \cdots 1.0 < h \leq 2.0m$	
	外周長 L (m)	±(10+L/10)	
根固めブロック工	基準高 ∇	層 積	±300
		乱 積	± $t/2$
	厚 さ t	-20	
	幅 w_1 w_2	層 積	-20
		乱 積	- $t/2$
	延長 L_1 L_2	層 積	-200
乱 積		- $t/2$	
捨石工	基準高 ∇	-100	
	幅 W	-100	
	延 長 L	-200	

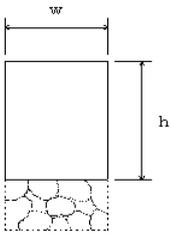
測定基準	測定箇所	摘要
<p>1箇所／施工延長40m ※は現場打部分のある場合</p>		
<p>施工延長40m(測点間隔50mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは、1施工箇所につき2箇所。 コア採取は、200mにつき1箇所以上。ただし施工延長200m未満100m以上の場合については、1個採取するものとする。また、複数路線の場合は各路線毎に同上の採取頻度とする。</p>		
<p>図面の寸法表示箇所にて測定。</p>		
<p>施工延長40m(測定間隔50mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所</p>		
<p>幅、厚さは40個につき1箇所測定。</p>		
<p>1施工箇所毎</p>		
<p>施工延長40m(測点間隔50mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		

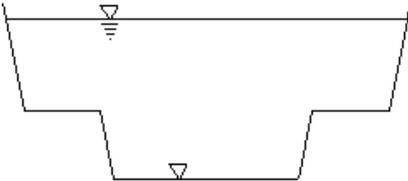
出来形管理基準及び規格値

単位mm

工 種	測定項目	規格値
護岸付属物工	幅 w	-30
	高 さ h	-30

工 種	測定項目		規格値		
			個々の測定値 (X)	10個の測定値の平均 (X ₁₀)	
			上限	下限	
浚渫船運転工 (ポンプ浚渫船)	基準高 ▽	電 船	200ps	+200	-800
		電 船	500ps	+200	-1000
		電 船	1000ps	+200	-1200
	ダイゼル船	250ps	+200	-800	
		420ps 600ps	+200	-1000	
		1350ps	+200	-1200	
	幅		-200		
	延 長		-200		
	浚渫船運転工 (グラブ船)	基準高 ▽		上限+200	
		幅		-200	
延 長		-200			

測定基準	測定箇所	摘 要
各格子間の中央部 1 箇所を測定。		

測定基準	測定箇所	摘 要
<p>延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横方向は、5 m毎。 また、斜面は、法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。</p>		
<p>延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横方向は、5 m毎。 また、斜面は、法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。</p>		